第２回 鶴嶺西地区 防災“も”まちづくりワークショップ開催概要

１　開催概要

日　　時	令和５年１２月１７日（日）　１３：３０～１６：３０
場　　所	鶴嶺西コミュニティセンター２階会議室２，３，４
参加者数	約２５名

２　プログラム

① まちあるき
② グループワーク
③ 発表
④ 閉会のあいさつ ……鶴嶺西地区まちぢから協議会防災部会長　久慈（くじ）　崇（たかし）
⑤ 次回の確認

３　ワークショップ内容

◆まちあるき

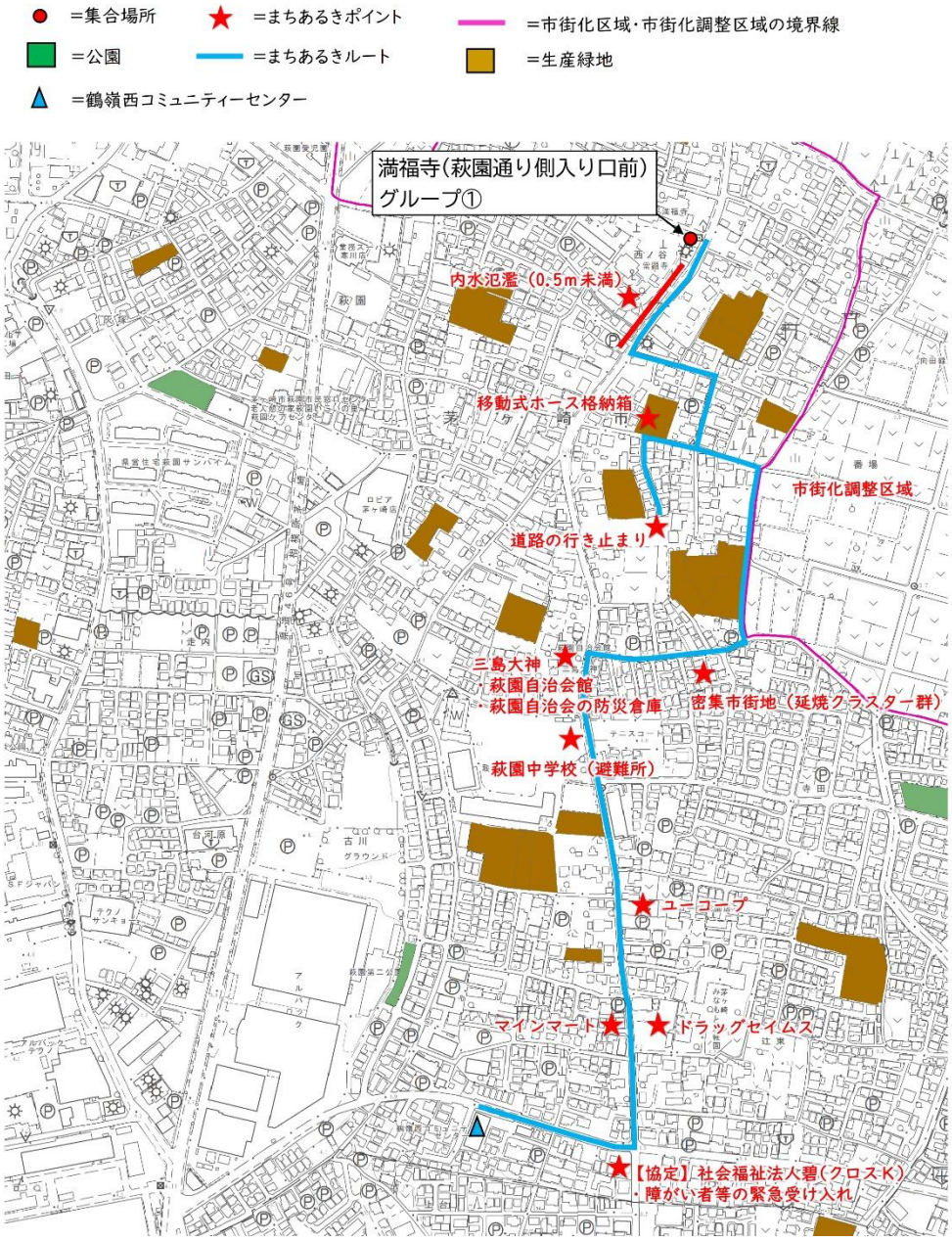
第１回ワークショップでグループワークを行った５つのグループごとに、地区内の異なる場所に集合し、会場となる鶴嶺西コミセンに向けて、約 1 時間をかけてまちあるきを行いました。

まちあるきにおける点検箇所は、災害時の危険箇所や避難時に問題になりそうな箇所、今後の活動に活かせそうな地域資源等を、確認していきました。

各グループともに、日ごろの活動団体や居住地が分散するようにメンバーを構成したことで、同じ地区でも、普段は通らないところや使わない場所などを見ることができ、新たな発見や次年度以降の活動に向けたヒントがあったのではないでしょうか。

グループ①のルートとまちあるきの様子

【まちあるきルートマップ　グループ①】



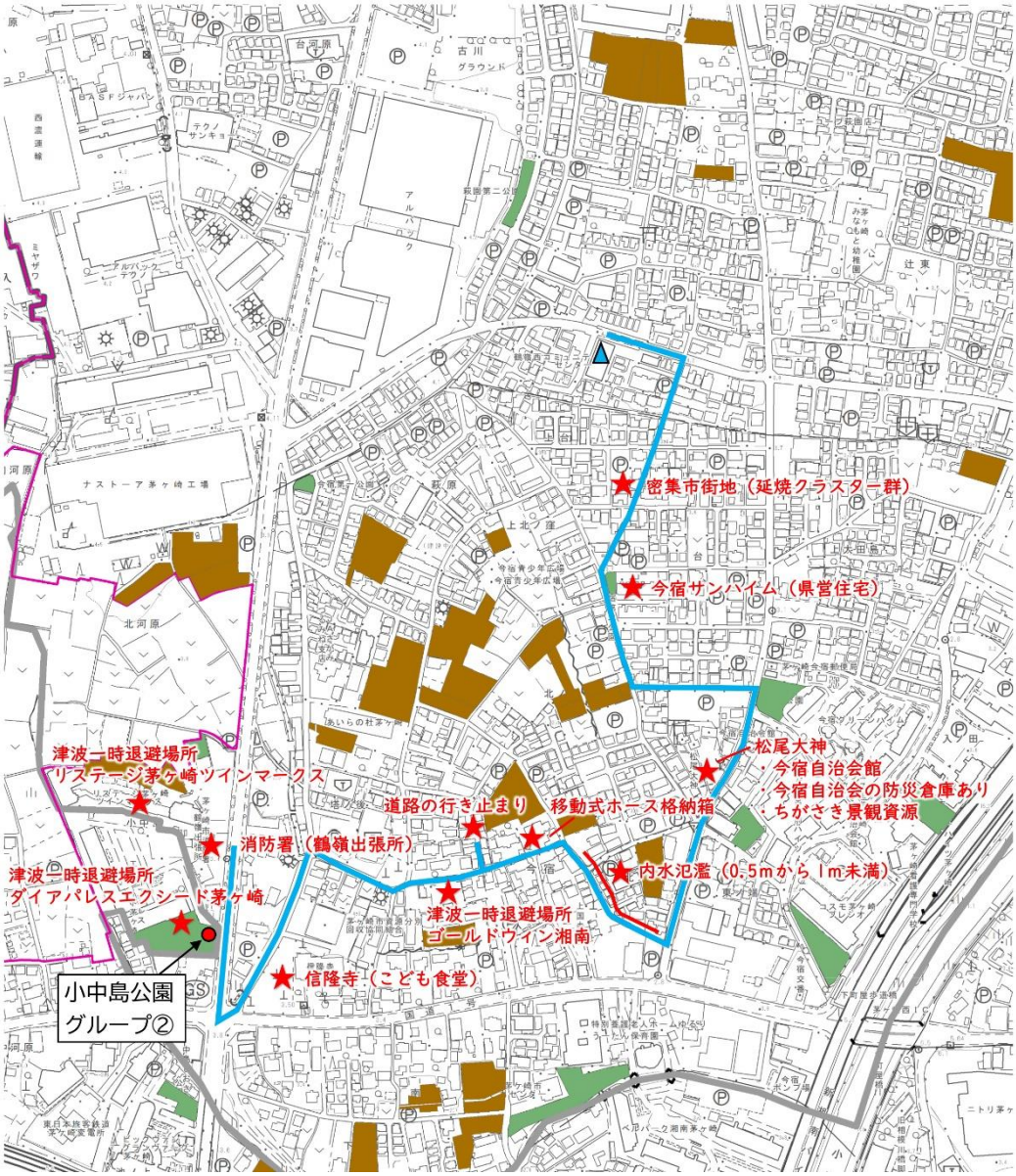
グループ②のルートとまちあるきの様子

【まちあるきルートマップ　グループ②】

●＝集合場所　★＝まちあるきポイント　＝市街化区域・市街化調整区域の境界線

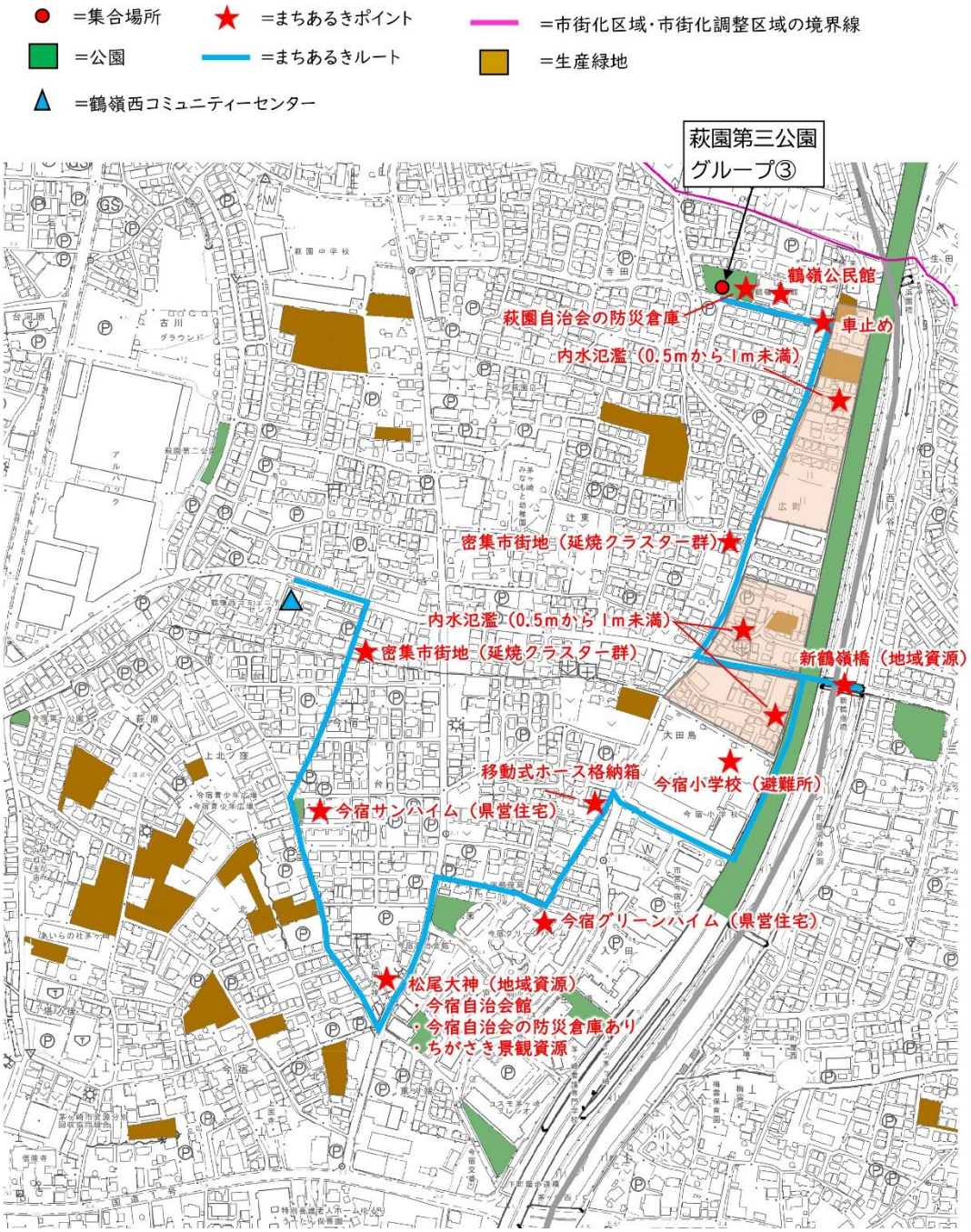
■＝公園　＝まちあるきルート　■＝生産緑地

▲＝鶴嶺西コミュニティーセンター



グループ③のルートとまちあるきの様子

【まちあるきルートマップ　グループ③】



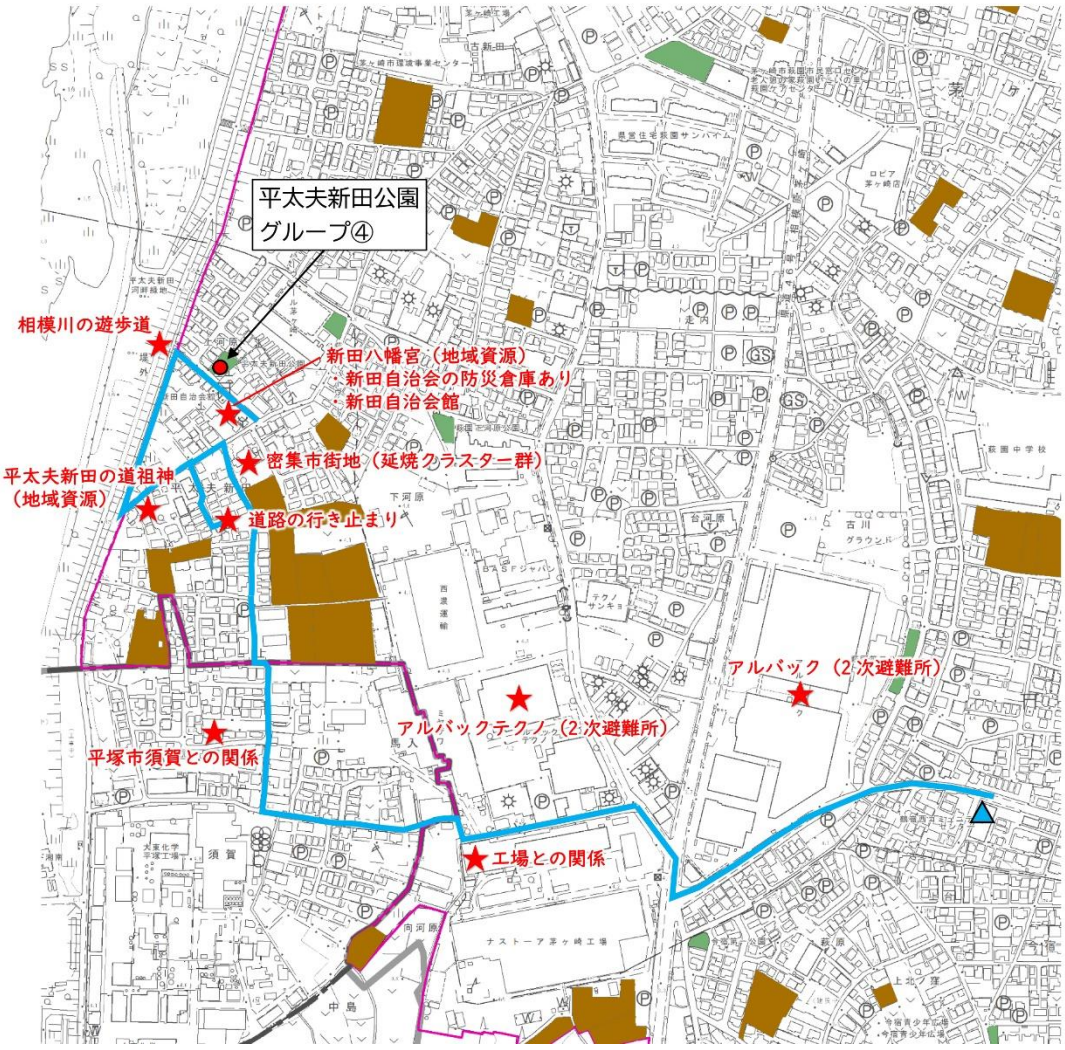
グループ④のルートとまちあるきの様子

【まちあるきルートマップ　グループ④】

●＝集合場所　★＝まちあるきポイント　＝市街化区域・市街化調整区域の境界線

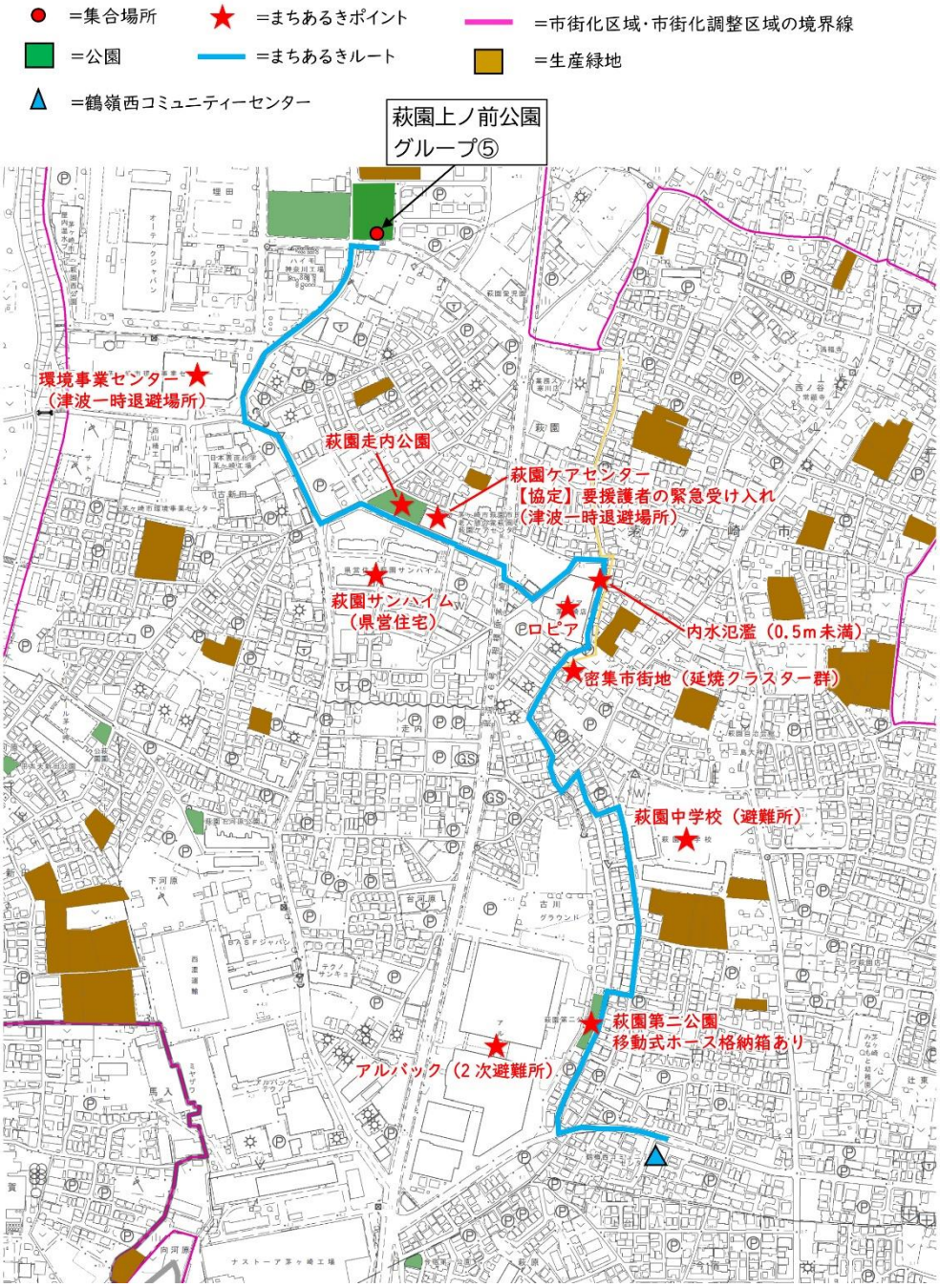
■＝公園　＝まちあるきルート　■＝生産緑地

▲＝鶴嶺西コミュニティーセンター



グループ⑤のルートとまちあるきの様子

【まちあるきルートマップ　グループ⑤】



◆ワーク・ディスカッション

意見交換のあと、グループに分かれて、以下についてとりまとめを行いました。
①まちあるきの主要な点検結果のとりまとめ
②このワークショップで気づいたこと、今後の活動の中で活かせそうなこと

○グループワークの様子

とりまとめのあと、各グループから発表を行い、参加者全員で共有を図りました。
今回は、手上げにより、希望順に発表をしてもらいました。

［グループ②］

まちあるきでは、津波一時退避場所となるマンション、子ども食堂を開催している信隆寺、消火栓、商業施設、そして、防災倉庫等を確認しました。

気がついたこととしては、津波一時退避場所となるマンションの場所や、避難時にオートロックの玄関をどうやって通るのかなど、事前に確認と周知を図る必要があることが挙げられました。商業施設との連携の可能性についても意見が出ました。

また、歴史があり、コミュニティの中心となっているお寺は、地域資源として、重要という意見も出ました。

加藤教授のコメント

津波一時退避場所となるマンション等については、自治会単位で防災訓練をする際に、実際に避難してみるなどにより、使ってみるということが重要です。また、この地域は大雨による浸水被害が懸念されるため、津波だけではなく、他の災害時にも退避場所として活用できるかを事前に話し合っておくことが考えられます。

［グループ③］

まちあるきでは、地盤が低く、浸水することが多いエリアを点検し、この地域の課題であると認識しました。また、河川については、流れをよくするため泥を無くした方がいいという意見がでました。備蓄倉庫については、誰がカギを管理しているかを周知する必要があります。

今後の活動については、避難のための逃げ道マップをつくることや、防災訓練、防災担当者のリスト作成・周知の他、気軽なイベントの開催を通じて、防災についてみんなで考えることが重要であるという意見が出ました。

加藤教授のコメント

備蓄倉庫のカギの番号は、地域内に番号を知っている複数の人がいて、災害時には、それらの方々が連携して対応することになると思います。地盤が低いエリアについては、行政と共有し、排水機能を確保することが望まれます。

内山のコメント

ご意見があったとおり、みんなで防災に取り組むことが重要です。全ての人が、誰かに助けてもらえるような体制をつくることは困難です。そのため、あらためて、自助についてしっかりと考えるような取組に繋がることが有効です。

［グループ⑤］

まちあるきの中で、萩園第二公園に設置されたかまどベンチが気になりました。是非、防災訓練で使ってみて、有効であれば、他の公園等にも広げていくことが考えられます。

津波一時退避場所である萩園ケアセンターについては、津波に限らす、どのような災害でも退避できる場所とすることが有効と思いました。

バスで高齢者等を商業施設へ送迎する買物サポートについて、このような日常の取組にあわせて、災害時の高齢者の避難について考えることができるのではないかといった意見が出ました。

地域の活動団体と工場、スーパー、ケアセンター等が連携する必要があり、まずは顔合わせから始めるべきであるという意見が出ました。

今後の取組については、まずは、課題を絞り込んで解決していく視点が必要で、災害の種類、建物の状況、住民の状況、地形の状況の視点で分析し、優先順位を設定した上で、対策を考えていきたいです。また、是非、かまどベンチを使った防災イベントを開催することに取り組みたいです。

加藤教授のコメント

かまどベンチの活動は良いと思います。使ってみることで、災害時に食料や燃料をどのように確保するかを考えることも必要です。

様々な視点で分析した上で、優先順位を整理し、仕組みづくりしていくことが提案されていましたが、とても重要なことです。

［グループ①］

まちあるきでは、行き止まり道路が多いこと、消火栓の場所がわかりにくいこと、寺や神社などにおいてオープンスペースが多いこと、ビニールハウスの横に重油が置かれていること、まちあるきルート上に店舗が多いこと、道路の舗装状況や東西方向の道路が狭隘であること等について確認することができました。

今後の活動については、行き止まり道路対策、道路環境改善、消火栓等の防災関連情報の周知、寺や神社等について日常的に交流をもつこと、店舗との協力関係、防災訓練・まちあるきの必要性等の意見がありました。また、高速道路を避難場所に使えないかという意見も出ました。

加藤教授のコメント

消火栓についてですが、地震時に上水道の圧力が低下していると使えないことがあります。その際には、防火水槽を活用して消火活動をする必要があります。このようなことも含めて、周知を図ることが重要です。

また、高速道路への避難ですが、簡単には進入できなくなっているので、かなりハードルが高いと思います。慎重に検討していく必要があります。

この地区は、大雨時に浸水が予想されるところです。もともと地盤が低いところに、新しい家が建ってしまうというまちづくりの課題があります。大きな農地が開発され、行き止まり道路ができるなど、市の都市整備上の課題もあると考えられます。

［グループ④］

まちあるきでは、細街路が多いことを確認しました。また、まちの資源としては、工場が多く、地域との連携ができれば、大きな力になることが考えられます。まずは、工場でどのような製品を作っているのか、どのような設備があるのかなどを把握することから始めたいと思います。相模川の堤防の近くには、道祖神があり、このような地域資源も確認しました。

コミュニティの視点からは、新興住宅地の住民と、以前から住んでいる住民とのつながりがないことが気になります。さらには、生産緑地が延焼火災に対する避難場所として活用できるのではないか。防災倉庫のカギの管理方法の周知について意見が出ました。

今後の活動としては、工場と交流を図り、工場内の見学会を開催することや、ブロック塀の安全確認などが考えられます。また、自治会、学校等がコミュニケーションを図ること、地域内に住む外国人への対応を検討することなどが出されました。

加藤教授のコメント

外国人が多いということは、工場で働く方が近くに住んでいるということかと思います。工場との交流と一緒に考えることができるかもしれません。

【加藤孝明教授の全体講評】

５つほど、感想があります。

①まずは、自助を強化することが重要です。多くの避難行動要支援者が居る中で、全ての方を支援することは不可能です。要支援者も被害について情報を得て、リアリティをもって、災害時にどう行動するかを自分で考えることが必要です。

②次に、共助の力を育むことです。自助を強化した上で、自助だけでは対応できないことを共助で乗り越えるといった考えが大切です。

③共助の力を育むために、地域の資源を柔軟に活用して、災害を乗り越えるシステム、仕組みをつくることなどの意見が出ました。とても有効と思います。

④さらには、みんなで災害を乗り越えるためには、コミュニティが重要になります。これまでの関係性を活かして、さらに防災力を高めるためのコミュニティや連携体制を考えることが必要です。

⑤新しい住宅地が形成されるなど、まちの変化がありますが、これまで以上に危険が増えないように、まちの開発等をマネジメントしていくことが重要です。

みなさんの発表を聞いて、以上のようなことを考えました。次回は、より具体的な取組について、意見交換ができればと思います。

◆閉会のあいさつ

今回、まちぢから協議会、地区社協、民生委員の方々が集まり、まちあるきをして、今後の取組について意見交換ができました。とても貴重な機会となりました。

是非、鶴嶺西地区全体に広げて、話し合いや活動をしていきたいと考えます。

今回のワークショップを契機に、防災に強いまちをつくっていきたいと考えます。

次回のワークショップも、みなさまよろしくお願いいたします。

鶴嶺西地区まちぢから協議会
防災部会長　久慈（くじ）　崇（たかし）　氏